

史跡 伊勢堂岱遺跡

秋田県北部にある伊勢堂岱遺跡では、4,000 を超える石が、4 つの環状列石を形作っています（紀元前 2000 年頃）。これらの環状列石は 200 年にわたって構築され、祭祀の場として使われていた、ということを示唆する証拠があります。環状列石の周辺では、幅広い様式とデザインの土偶など、埋められた土器が大量に出土しています。

石の産地

これらの環状列石は、白神山地が見える高台の上にあります。環状列石は、多くの種類の石からできています。これらの石は、米代川や小猿部川など、この地域の川から集めたものです。これらの石は最大で 5km の距離を運ばれてきたのかもしれない、と考古学者たちは考えています。

土地の整備

環状列石の調査により、石が並べられる前にこの土地が整備された、ということが示されています。土地を掘って平らにする作業は、石や木だけで作られた単純な道具によって行われたのでしょうか。

環状列石周辺の建物

環状列石の外縁周辺には、柱で支えられた建造物跡が見つっています。この建造物が何に使われていたかは不明ですが、住居ではなかったと考えられています。発見された事実が示しているのは、ここが祭祀の場だったことです。おそらく、周辺地域の村々によって共有されていたのでしょう。

これらの建造物は、遺体を埋葬する準備に使われていたのかもしれない、と示唆する説もあります。環状列石周辺で墓穴が見つっていることは、この説と整合します。土壌が酸性のため、墓に遺体は残っていません。しかし、土偶や副葬品は多くの墓で見つっています。いくつかの環状列石の周辺では、柱を立てるための穴が発掘されたままの状態になっています。建造物の規模が感じられるよう、柱が立てられています。

土偶

伊勢堂岱遺跡では、人間の形をした、独特で表情豊かな土偶が 200 体以上見つっています。これらの土偶は、平たい板のような土偶（板状土偶）から、中空の土偶（中空土偶）まで、様式と意匠に幅があります。より単純な姿の土偶は、はっきりした手足のない抽象的な形をしています。一方、より手の込んだ土偶は、細かな模様や強調された曲線を特徴としており、身体各部の見分けがつかます。多くのものは、祭祀における表現として、意図的に壊されています。祈りの表現として壊されたのかもしれない。

伊勢堂岱遺跡縄文館

遺跡の入口にある伊勢堂岱遺跡縄文館 [\[リンク\]](#) は、明るい照明のガラスケースで出土品を展示しています。この照明により、土偶やその他の土器の表情と複雑さがはっきり分かります。伊勢堂岱遺跡縄文館の展示

は、この遺跡と環状列石の概要を伝えてくれます。発掘作業の写真を含む大きな掲示物には、考古学的調査による発見について英語と日本語で記されています。

伊勢堂岱遺跡縄文館は工芸体験を行っており、装飾品や土器を作ることができます。予約が必要です。Tシャツや、土偶をテーマにしたお土産など、幅広い品を販売するミュージアムショップがあります。展示室への入室には若干の料金が必要ですが、ミュージアムショップとロビーは無料です。ロビーでは、環状列石に関する短い動画が上映されています。この動画は、英語などいくつかの言語で観ることができます。

関連遺跡

北日本の大規模な先史遺跡には、他にキウス周堤墓群 [\[リンク\]](#)（北海道）や、大湯 [\[リンク\]](#)（秋田）、鷲ノ木 [\[リンク\]](#)（北海道）、小牧野 [\[リンク\]](#)（青森）、大森勝山 [\[リンク\]](#)（青森）の環状列石などがあります。